

くどう市長と語ろう！

ふれあいトーク

(第24回)



日 時 令和元年10月15日(火) 18時30分～

場 所 みなとふれあいセンター

≪開催・実施内容≫

◆ 参加者 24名 (男性11名 女性13名)

◆ はじめに、工藤市長から、挨拶と市政の近況報告を行いました。

1. 基幹産業について

国が策定した「北海道総合開発計画」では、「世界の北海道」というキャッチフレーズで、食と観光を戦略的な産業として位置付けています。また、第5次稚内市総合計画においても同様に、重要な産業として取り組んでいますが、食の中心となる水産業と酪農は、今年は非常に好調です。また、観光については、昨年胆振東部地震の影響で落ち込みはありましたが、立ち直りは早かったなという印象を持っています。

2. 空港民営化について

北海道内の13空港のうち、7空港の一括民営化について、稚内空港は令和3年春の移行を予定しています。経営側とのこれまでの交渉では、空港ビルを建て替えたいという話もでており、観光振興の面で役に立つことから、本市としてもぜひ、進めていただきたいと考えています。

3. 港湾整備について

末広ふ頭の岸壁工事が終了し、大型クルーズ船のさらなる誘致に向けて、さまざまな方面に働きかけているところです。現在は、北防波堤ドームの補修作業を中心として港湾整備を行っています。

4. 風力発電について

現在、稚内から天塩中川までの送電網工事が進められているほか、豊富町では、世界最大級の蓄電池の建設が進んでいます。これらが完成すれば、この近辺に多くの風車が建設されることを見込まれます。風車の建設工事にあたっては、船舶での輸送により稚内港がさらに活性化することが期待できますので、完成に向けて民間企業の支援等に取り組んでいます。

◆ふれあいトークで話し合われた内容は、以下のとおりです。

1. 『市役所を中心とした北地区と、宗谷総合振興局周辺の南地区を拠点とするまちづくり』について
2. 『市立稚内病院の医療体制の充実』について
3. 『JRの存続』について
4. 『今後の副港市場』について
5. 『港地区の学童保育所』について

1. 『市役所を中心とした北地区と、宗谷総合振興局周辺の南地区を拠点とするまちづくり』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：南五町内会関係者》

将来、稚内市の人口は2万人～2万5千人になる可能性があると言われていいます。地域の活性化の核（拠点）を整備して、まちづくりを進めてはいかがでしょうか。

「北地区」は、将来的に水族館や科学館を市役所周辺に移転して、観光的要素を集約し、より多くの人が集まる地区に、また「南地区」には、教育的要素に加えて、産業に関する研究機関などを集約して、機能させる地区としてはどうでしょうか。

また、市役所庁舎は、従来の官舎のイメージにとらわれない多目的な利用ができる施設として稚内駅周辺に建設すれば、市役所はとても機能的に働くのではないのでしょうか。

●市長の発言

拠点ごとにまちを整備するという考え方については、稚内市の地形的な特徴からも、そのとおりだと考えています。しかし、これまでの市街地形成の歴史や検討経過、国・道の考え方もありますので、今、何かをどうするというお話は、ありません。

庁舎の建設については、まだ具体的な場所は決まっていますが、中心市街地の活性化という観点も含め、都市計画マスタープランを踏まえて、いろいろな方のご意見を聞きながら、検討していきます。

2. 『市立稚内病院の医療体制の充実』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：南五町内会関係者》

市立稚内病院は、出張医体制のため、遠くのまちに行って手術を受けなければいけない診療科もあります。これから先、高齢になり、自力で市外の病院に行けなくなることが心配です。また、治療のために稚内を離れる高齢者もいますが、この町を終の住処として、地域の中で安心して暮らすため、医療体制を整えていただくようお願いします。

地域医療を考える稚内市民の会の活動は、素晴らしいと思います。私たち市民も、ともに医療を考え、この活動を支えることも大切だと感じています。

●市長の発言

医師の数の少なさについては、宗谷全体の問題として受け止めています。市立稚内病院では、研修医の受け入れ枠確保に取り組んでいますし、国や、出張医を派遣していただいている大学病院には、医師の確保の常勤体制について、お願いを続けています。医師会のご理解とご支援もありますが、現実的には、市民のみなさんの評価につながるような改善はできていません。これからも、実情を伝えながら、地道にお願いを続けていきます。

開業医の誘致については、診療科目のバランスを見ながら、引き続き取り組んでいきます。

地域医療を考える稚内市民の会の活動は、さまざまな場面で、高く評価されています。今後も皆様のご支援をお願いします。

3. 『JRの存続』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：南五町内会関係者》

JRの存続に向けて、関係者の方々の日頃の活動に敬意を表します。ぜひ存続してほしいと願っていますし、市民一丸となって活動を支え、存続を訴えることが求められていると思います。

自家用車を利用できない子供や、定期的に市外に通院する高齢者のために、フェリーの島民割引のような制度を導入できないでしょうか。

●市長の発言

JR宗谷線については、まだ結論が見えない状況ですが、天北線の廃線のようなことを二度と繰り返したくないという思いで、沿線自治体と協議会をつくって様々な活動をしています。その活動の一環で、風っこそうや号に乗車したときには、アナウンスも聞きながら、改めて宗谷線は面白いと感じました。

フェリーの島民割引は、有人国境離島法という法律に基づいた制度であるため、JRで同じような取り扱いはできませんが、JR北海道のホームページで、切符を安く購入できるサービスもありますので、活用してみてください。

私たちの次の世代のためにも、さまざまな手段で国や道に要望を続けていきます。

4. 『今後の副港市場』について

●参加者からの意見、質問

〈質問者：南四町内会関係者〉

副港市場を売却するというような話がありますが、どのような内容で交渉しているのでしょうか。

特にこの町内会では、多くの市民が昔から温泉を利用しており、大きな関心を持っています。

●市長の発言

副港市場は、あの地区の賑わいを確保したいという思いで、公共的なスペースも整備して運営が始まっていますが、市の出資比率は、他の第三セクターと比べて、大きくはありません。

売却交渉の中心となるのは民間事業者ですが、市としては、雇用を守るという意味でも、できるだけ今ある機能は維持してほしいと伝えていきます。

具体的な交渉はこれからになりますが、令和元年12月中には、ある程度はっきりとしたお話ができるのではないかと考えています。

5. 『港地区の学童保育所』について

●参加者からの意見、質問

《質問者：学校関係者》

市内の小学校で、港小学校だけ学童保育所がありません。現在は、ランドセル登録などを活用していますが、悪天候のときにも預かってもらえるなど、この港ふれあいセンター利用の諸条件を学童保育所と同等にさせていただけないでしょうか。

安心して子供を預けられる場所をつくることで、港地区のまちづくりや人づくりにも効果があると考えています。

●市長の発言

所管のこども課で、令和2年度から、港ふれあいセンターの開所時間などを学童保育所と同等にできるように検討をしています。

今後、こども課から関係者の皆さんへ説明する機会を設けたときに、いろいろとお話していただきたいと思います。

《終わりに工藤市長から》

本日は、お忙しい中いろいろなお話を聞かせていただき、ありがとうございました。私は、この町をもっと発展させて、次の世代に引き継いでいきたい、という思いで毎日取り組んでいます。

何かありましたら、直接でも、また担当課でも構いませんので教えていただきたいと思います。

これからもどうぞよろしく願いいたします。



ご参加いただいた皆さんから、さまざまなご意見をいただき、活発な議論が交わされました。

お忙しい中、ご参加いただきましたことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。